

# としはる通信

2 0 0 8 . 1 2

No. 2 8

編集、発行  
川村 俊治  
〒258-0111  
山北町向原  
17-10  
75-0928  
E-Mail  
t-kawamu@m  
vd.biglobe.ne.jp



## いよいよ

## 一般質問

今年も残すところわずかとなりました。世相を表す漢字が「変」と決まりましたが、皆様方にはどのような年だったでしょうか。

寒い日が続きますがご自愛され清々しい新年を迎えられることをお祈りいたします。

さて、12月10日から12日までの3日間、議会定例会が開催されました。主な議題は第4次総合計画基本構想の策定と一般会計、特別会計および水道事業会計の補正予算でした。

いずれ議会だよりで詳しく報告されますが、速報としていつものようにお知らせします。ご一読いただいでご意見などお寄せいただきますようお願い申し上げます。



川村としはる  
( 俊治 )

### 県西地域市町合併協議に

どう対応するか

任意合併協議会研究会の設置が決まり、合併への動きが出てきたので町の考え方を質問しました。

質問 県西地域合併検討会では下部組織として任意合併協議会研究会(以下研究会)を設置するが、町はどのように対応するのか。

答弁 副市長、副町長レベルで検討し、もう少し具体的な判断材料を町民に提供する必要があります。

質問 小田原市長は、市民からの請願を市議会が採択したのを受けて、任意合併協議会研究会設置を提案してきたのではないか。就任時の談話より合併に舵を切ったと見えるがどう考えるか。

答弁 市議会の提案を受けて、当初のスタンスより前に踏み出したと受け取っている。

質問 任意合併協議会が設置されれば参加を表明しているが、そ

の前に研究会で課題を掘り下げ町民に具体的な情報を提供する必要があると考えるがどうか。

答弁 言われるとおりであり、研究会では内容的な検討をするのとだと思つう。

質問 合併したときとしないときの町の台所事情を明らかにして町民が財政運営のあり方を自覚して選択するべきではないか。

答弁 財政の実態を把握して、共通の土俵で比較できるデータを提供できるようにしたい。

質問 平成合併の検証をして、町民に状況を知らせるべきだ。

答弁 県西2市8町のような財政的に健全な市町の合併事例は多分ない。将来を見据えた前向きな合併をすれば全国初かもしれない。

質問 合併のメリット・デメリットは一般論化できない。中核市になったとき、広大な面積に少ない人口の山北はどうなるかを明らかにすべきだ。

答弁 言われることはよくわかるので先々のことを十分想定した上で発言し、対応していきたい。

質問 道州制が導入されたときは基礎自治体の規模が制限され、合併の強力推進、そして編入合併の強制が考えられる。それについても検討が必要だ。

答弁 道州制については全国町村会で反対しており、まだ先の議論だと考えている。

### 県西合併は前進するのか

小田原市長の交代で一時は後退したかに見えた合併問題は新しい展開をしようとしています。

#### 小田原・南足柄市で請願を採択

小田原・南足柄の各市議会は、合併推進に向けて任意合併協議会の設置を求める請願を9月議会会で採択しました。

これを受けて小田原市長は県西地域合併検討会の下部組織として任意合併協議会について検討する任意合併協議会研究会の設置を提案、平成21年2月に発足することが決まりました。合併検討会では研究会の検討結果を受け、平成22年3月までに合併に対する方向性を出すことにしています。

### 研究会は何をするべきか

3月に出された合併検討会の報告書は総論的、概的なものでした。研究会では、課題を十分に掘り下げて具体的な議論をし、町民生活に直結する課題を開示して町民に選択を委ねることが大切です。任意合併協議会に入れば、合併に向けた話し合いが主題になるので、その前に町民の意向を十分に確かめる必要があると考えます。

### 山北町独自の財政推計を

合併検討会の報告書では平成22年度以降は歳入減で赤字になるとしているが、歳入が減った分、歳出も減らせば赤字にすることは可能ではないか。しかし、義務的経費は減らせないので、道路の補修や改良に係る投資的経費、物品購入などの物件費、各団体への補助金となる補助費等を減らすことになる。サービス低下でもよいか、合併を選ぶか、町民が覚悟できる情報を示さなければならぬ。

### 平成合併の検証を

平成大合併により、3000以上あった市町村の数は平成20年4月現在1788となった。小規模町村を解消して、規模を大きく

し基礎自治体の足腰を強めようとする国の思惑通りに進んでいるが、合併には光と影がある。住民生活の視点で検証する必要があると考えます。

山北町は県西地域の35%の面積を有し小田原市の約2倍、しかし人口は小田原市の約6%に過ぎない。この状態で人口30万の中核市となったときにどのようなことが起き、どのような対策が必要かを検討するためにも事例の検証が必要と考えます。周辺部の犠牲の上に中心部が栄えるということだけは避けなければならぬ。

### まちづくりのビジョンを明確に

平成大合併は交付税削減などから来る財政破綻の回避、合併することによる合併特例債・合併算定替など財政的支援を目的とするものが多いといわれている。

先の合併検討会の報告書でも財政困窮からの脱却が合併の目的になっている。

中核市を目指すとしているが、なぜ今の自治体ではいけないのか、なぜ新しい自治体が必要なのか、そこで何をするのか、のビジョンを示す必要があります。

### 道州制を見据えた議論も

国では道州制の議論が進んでいます。道州制においては中核市(人口30万)程度の基礎自治体を目指しており、町村が消える可能性があります。合併の強力推進、そして編入合併の強制が行われることはないか、も視野に入れての検討が必要と考えます。

### 水上橋架替工事始まる

予定されていた水上橋の架け替え工事が始まります。工事は平成20、21、22年度の3年間で行われ、新橋は現在の橋から約50メートル上流、孫子沢との合流地点付近に架けられます。

平成20年度は右岸の橋台新設と孫子沢の付け替え工事が行われます。21年度は左岸の橋台工事、22年度は橋の新設と旧橋撤去及び取り付け道路工事が行われます。3年の継続工事で、指名競争入札の結果、株式会社荻野工業が落札しました。工期は平成23年3月18日です。

### 資源ごみ再生ルートを視察

分別収集されているペットボトル、プラスチック製容器包装、トリー・発泡スチロールなどの資源ごみは分別収集された後、どうい

うルートで再生されているのかを視察するため、去る12月4日、全議員の参加で南足柄市、海老名市そして埼玉県神川町にある会社を訪問しました。

リサイクルステーションに出された資源ごみは中間処理業者である南足柄市のあしがら環境保全株式会社(株)に運ばれ、選別・圧縮して次工程の再生業者に運ばれます。

ペットボトルはラベルをはずして出すことにより、品質の高い原料になるので、山北町の取り組みは評価されており、圧縮後、埼玉県のリサイクル会社に運ばれ、選別・洗浄の後細かく砕いてPETフレークとなり、フリース、カーテン、カーペット等の材料として出荷されています。

プラスチック製容器包装はあしがら環境保全株式会社で選別・圧縮の後、海老名市の再生業者で再生固形燃料(RPF)に再生され、火力発電所の燃料として出荷されています。

トリー 発泡スチロールはあしがら環境保全株式会社で溶融・固形化の後出荷され、パレットとして再生されています。

資源ごみは有効に再生活用されており、皆様の分別の努力は活かされていることを報告致します。